

第7期第2回府中市美術館運営協議会報告書

- 1 日 時 平成25年6月22日(土) 午後3時～5時20分
- 2 場 所 府中市美術館会議室
- 3 出席者 委員(順不同・敬称略)
中林・藤原・大杉・中村・谷矢・丸山・薩摩・堀江・茨木・津田
(欠席 松浦・高江)
事務局
井出館長・山村副館長・菊池管理係長・志賀学芸係長
武居教育普及担当主査・会津主任
- 4 内 容
 - (1) 会長挨拶
 - (2) 府中市美術館館長挨拶
 - (3) 平成24年度の美術館事業と運営について資料にそって説明
- 5 議 題
 - (1) 美術館と地域社会、そしてマネジメントについて

資料についての質疑応答

Q 教育普及事業の開催数が、237回となっているが、多いのではないか。
ほぼ開館日毎日ではないか。
頻度、マンパワーの状況はどうなっているか。

A 普及担当は一人ですが、関連事業が含まれているので各担当の学芸員が分担して実施している。
土日とかは同日に2～3の事業を行うことがあるので毎日という訳ではない。

Q 美術鑑賞教室の人数は企画展入場者に含まれているのか。

A 企画展の入場者数に含まれています。

Q 学年は何学年か。

A 要綱上は4～6年となっていますが、4年は1校、5～6年は半々です。
学年については学校に任せています。
中学生は1年の時に個人観賞をしている。

Q 美術購入費が23年度～25年度「0」円となっているが、いつからか。

A 23年度からです。

以前は基金があり、また一時期プールしていたものがあって、それで購入していたが、現在はそれが難しくなっている。

寄付があり、毎年1回美術品収集選定委員会があり、そこで作品について検討して、現在1,800点の所蔵品がありここ10年間で約800点増えている。
これからも寄付に期待せざるをえない。

この後マネジメントの話になりますが、財政が厳しいことも含めて、皆様の意見

を伺いたい。

Q 寄贈ということから、今の「河野コレクション」をみると、河野さんと府中市美術館との関係はもともと縁が深いのですか。

A 平成7年～8年頃河野さんより譲渡したいとの申し出があり、150点購入。その後50点寄贈いただいた経緯がある。

Q 河野さんとはこれからもこのようなおつきあいをするのですか。

A 購入時は、寄贈の意味合いを含めた購入価格だった。

今回の展覧会を機に、府中市美術館が将来きちんとした受け入れ先であるということを知っていたら、継続した寄付をお願いしやすくなるかと思う。

議題資料の「公共施設の危機を乗り越えるために」について山村副館長より説明

以下、□は各委員の発言、■は事務局

□ 「公共施設マネジメント」を推進するための方策が5つ出ていますが、各施設はこれにのっとなってどのようなことをするのか。

■ この課題（方策）にのっとなってすべての施設の廃止、統合、見直し等検討していくことになる。

美術館の場合運営改善（見直し）は常に言われているが、運営改善という意味合いでマネジメントを考えていかななくてはいけない。

□ 美術館は他の施設に比べて特殊なミッションを持っている訳で、公共施設のなかではかなり個性的な存在だということが、根本的にある。

今、どこの美術館もマネジメント、効率化が求められている。その中で実際考えていかななくてはいけないことは、ソフト面である。

「いかにローコストで人を動かしていくか」を前提にして見ると比較的市立美術館は安定している。

これは地域と連携し、共生していくのに丁度いい規模だからだと思う。

市立美術館は地域社会とどう共生していくかが課題になる。

ソフト面、内容面で今まで府中市美術館は今までうまくやってきたと思うが、今後地域社会との係わり、人と時間をどう有効に組み合わせていくかを考えなくてはならない。

平成25年度の休館日数はなかなかよい。これが、府中市美術館がうまくいっている理由のひとつだと思う。

■ 展示替え休館日をここ数年は2週間だったが、今年度は予算の関係で、試験的に3週間にした。

□ 展覧会と展覧会の間があいていると、新しい展覧会がわかりやすくてよい。

■ 25年度と24年度の総入館者数があまり変わらなければ1日の平均入館者数が上がる。そうなれば、この方法は有効だったことになる。

□ 市民ギャラリーは閉館日には使えないことになる。
会館日を減らすことによって、1日の平均利用者が増えれば、市民ギャラリーの貸出の問題は出てくるが、数値的に説得力があるので受け入れられる。

□ ・**組織の活性化**・**展示**・**広報広聴**・**建物管理**について。
人も予算も減らされる中で、入館者を増やさなければならないという状況で、今後一番ネックになるのは何かと考えると、ボランティアの力ではないかと思う。
世田谷美術館の美術大学は、卒業生がボランティアになって企画、運営に携わっているが、地域に密着した、まさに美術館のあり方を示している。
ボランティアを育成し、連携をとることでボランティアがヘビーユーザーになり得るし、運営に携わることで、ボランティアの拡充が図れる。
生涯学習センターの有料の講座で美術館大学のようなものを作ってはどうか。

・**組織の活性化**について

□ 美術館全体で会議はあるか

■ 館長、副館長、学芸員で月1回の会議と職員全員では、週1回行っている。

□ 委託業者の受付看士の人たちの意見を受け入れ、聞き入れ前向きに検討をしてはどうか。

何かあった時だけではなく常に現場の声をひろってもらいたい。

学芸員の資質の向上が大切。そのために研修視察があるが、23年度の予算を見ると100万円残となっている。もっと研修、視察をしてもらいたい。

研究紀要は毎年2人位だが、できれば全員に小論文を書いてもらい、研究の場を与えてもらいたい。

・**展示**

前回の「かわいい江戸絵画」展は、とてもよかった。

企画展については、年1回市民に親しまれる、地域により密着した企画をすると市民が飛びつき、行ってみたいくなる。

・**広報広聴**

すべての作品がアーカイブズ化されていないので、どのような作品を購入しているかわからない。アーカイブズ化した方がよい。

年報、カタログ等が中央図書館にしかないのも、各文化センターにもすべて置き、市民サービスしてほしい。

開館時間について、国公立約17館がほとんど8時間なのに府中市はなぜ7時間なのか。

・**建物管理**

ロントンのデッキチェアが朽ちていて汚く感じる。ペンキを塗る等対応を。

ビデオライブラリーも開館当初のものしかないのも、少しずつでも新しくしてほしい。

□ ご意見のいくつかは、この10年間に話題となっていて、開館時間についてもそうですが、与えるべきものと必要性とゆうことで考えれば、美術館のまわりが真っ暗で人もいない状況で、単に開館時間を延ばしても有効ではない。

- 開館時間を10時～5時とした理由は？
- 平成12年の開館にあたり条例作成の時、都内の美術館の平均的時間とした。
- へんぴだから、暗いから短くするというのは失礼ではないか。
- 実際試してみたが、利用者数が上がらなく、経費がかかるだけなので取りやめた。
- 都市型とゆうか、吉祥寺、三鷹はビルの中にあるので、状況はちがう。
- 単独施設だと開けるだけでお金がかかるので、日々検討しなくてはいけない。
展覧会によって開館時間を変えることは簡単にできるか。
- 教育委員会にかければできるが、難しい。
- 芸大美術館は、非常に柔軟で展覧会ごとに時間の変更ができる。コアタイムとして10時～5時を決めておいて柔軟に変更できるようにしておくことがよいのでは。
- 市の受付看士については、年度当初に年間契約をするので、時間を延長した場合契約変更しなくてはならなくて、簡単にはできない。
- 芸大美術館では当初、変更がある旨伝えてあるので契約変更も問題ない。
- 公立美術館では、事務手続き上限界があるのではないか。
- 視点を変えて、市民に来ていただくという要求はどの程度あるか。
例えばスポーツ施設だが、子どもから大人まで組織だったライフサイクルの中でつくられている訳で、その中で活用したいという声があり、もちろん夜間もニーズがある。美術館は文化施設のため、組織だてしにくいのが、先々ライフサイクルを作っていくながら、ニーズを増やしていくことが必要だが、この周辺には何もなく美術館に来るしか目的がなく厳しい。
周辺にタイアップ施設があって何か一緒にやるとか、例えば野外コンサートがあるとか、他に施設が増えてくると利用者も増える。
- 美術館では美術館としてのきちんとした講座を定期的に行って欲しい。
生涯学習センターは生涯学習を楽しむことが目的で根本的に違う。
専門的な講座があったらきちんと学びたいというニーズがあれば、経費等問題はあると思うが、解決策を考えて欲しい。
作品の発表の場として、小、中、大人、シニアの部のようなジャンルで出品できる美術展があったらいいと思う。
今、お金が出せて、時間があって、やりたいことができるのは、シルバー世代。
入館者を増やすために、シルバー世代を取り込むことが有効。
- 世田谷の美術大学は、6万円の受講料で賄っているので、美術館としてお金はかかっていない。
- 世田谷の美術館は美術関係者が多く住んでいて、美術館を作る経緯は、区民からの要望によりできたもので、そういった意味で世田谷の美術大学はうまくいっているが、失敗した例も沢山あるので、いいところだけ真似してもうまくいかない。
リサーチが必要。
- 小学校の親が美術館を全く知らないのでも、美術館で公開授業をやったところ、好評だった。その後PTAの家庭教育学級で美術鑑賞をやった。

まずは、一度来てみるという設定をうまい形でできるといいのではないか。

- 学校との連携は順調にしているが、大人（中高年）には広報活動が届いていない。広報物だけが目をひくものであればいいというのではなく、地域のもので大人から子供まで定着しなくてはならない。そのためには長い目の着実な取り組みが必要。
- 市民に対してアンケートを実施しているか。
市民の意見を聞いた上で、会議の中でその意見を取り入れ、どのように対応していくか検討する必要があるのではないか。
- 展覧会ごとにアンケートをとり分析しています。
- 「美術館と地域社会、そしてマネジメント」というテーマを与えられているので、どうしたら美術館の運営がうまくいくかを問う内容のもの。
地域の美術館としての方向性、何をやっていったらいいのかアンケートで聞いたらいいのでは。
- やってみます。